

兵庫教育大学における 新しい教員養成スタンダードの開発

令和4年度
兵庫教育大学教員養成フラッグシップ大学
コンソーシアム報告
2023.03

教員養成スタンダード開発チーム

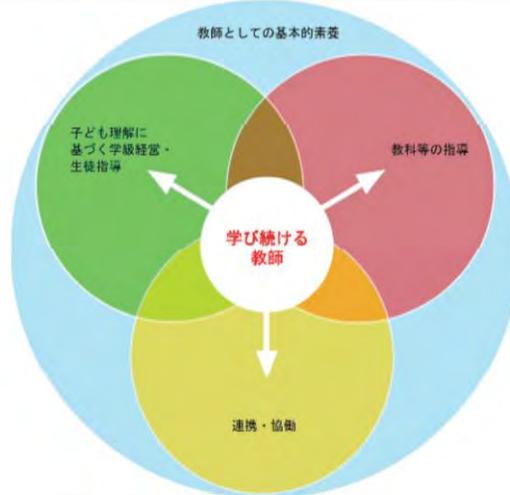
教員養成スタンダード開発チーム

- 森山 潤(リーダー)
- 永田智子
- 山中一英
- 岡村章司
- 川上泰彦
- 別惣淳二
- 掛川淳一
- 守山 勝
- 松田 充
- 清水優菜



教員養成フラッグシップ大学指定事業
兵庫教育大学
先端教職課程カリキュラム開発センター

現行:兵庫教育大学教員養成スタンダード



兵庫教育大学 教員養成スタンダード(小学校版)の概念図

教員養成スタンダード			自己評価のための具体例
学び続ける教師	省察の実践	1 常に自らの学びを省察し、課題を見つけて改善することができる	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの学びを振り返り、知識や理解の不十分な点に気づくことができる ・自らの教育実践を振り返り、実習ノートやポートフォリオで成果や課題を整理することができる ・大学の授業を通して自己の教師像を絶えず捉え直すことができる など
	研究を通じた専門性向上	2 研究活動を通じて絶えず自らの専門性の向上を図ることができる	<ul style="list-style-type: none"> ・知識や理解を深めるため、授業の予習や復習を積極的に行っている ・自己の研究テーマを持ってゼミに主体的に参加している ・研究に必要な情報・資料を収集し、活用することができる など
	長期的視野に立つ職能成長	3 長期的視野に立って、自らの職能成長を図ることができる	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の授業科目等が大学での4年間の学びや将来の教師の仕事にどのように役立つかを意識して自らの成長を図ることができる ・自己の理想的な教師像を具体的に述べることができる ・教員養成スタンダード等を手がかりに、教師の生涯にわたる成長という視点から、自己の現状と課題を述べる など

計50項目

スタンダード見直しの視点

- 2011年より、教員養成の質保証の観点から教員養成スタンダードを策定し、運用を開始。一定の成果。
- 2022年、教員養成フラッグシップ大学に採択。
 - 「令和の日本型学校教育」を担う教師のあり方検討特別部会による教師に求められる資質・能力の再整理
 - 「改正教育公務員特例法に基づく公立の小学校等の校長及び教員としての資質の向上に関する指標の策定に関する指針の改正等について(通知)」としてオーソライズされる
 - 変化の激しい社会の中で新しい教育を創造するため、「常に学び続ける教師」の重要性がこれまで以上に重要に

継続的に専門性を高め続ける教師
(Continuing Professional Development: CPD)

スタンダード見直しの視点

- 現行スタンダードは...
 - 「学び続ける教師」を中核とする点で先導的
 - しかし、当時は「質保証」の文脈
 - ✓ スキルリスト的にスタンダードを定義
 - ✓ スタンダードに基づく自己評価=技術的熟達が主眼
- CPDの観点からは...
 - 実践現場における「省察的実践」が重要
 - 教員養成から教職への連続性を捉える必要
 - ✓ 教員養成→教職への基盤を形成
 - ✓ 教職→教員養成で形成された基盤を「起点」として「省察的実践」へと向かう
 - 本来の「スタンダード」概念
 - ✓ 教職課程が具備すべき学生に提供する学修の事項と機会の標準。スキルリストではない。

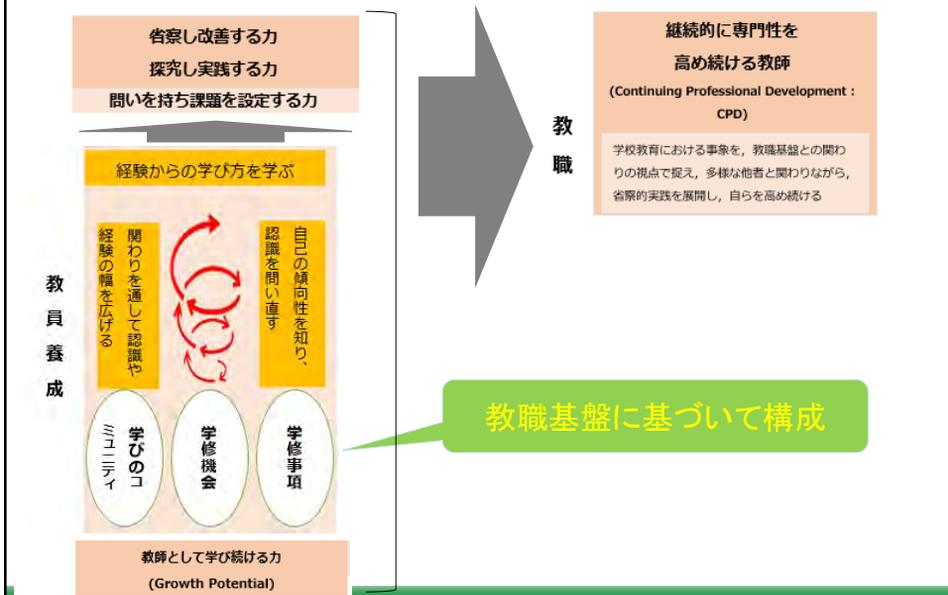
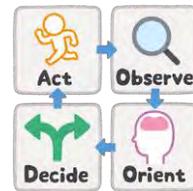
スタンダード見直しの視点

- **教師として学び続ける力⇒Growth Potential(GP)**
 - ✓ 大学1年生はゼロスタートではない。それまでの学習者としての経験、他者との関わり経験、多様な生活経験などを通して、教職につながる潜在的な資質・能力を形成している。
 - ✓ 教員養成は、学生の持つ潜在的な資質・能力を、教職に必要な資質・能力の構造を枠組みとしながら高める役割を持つ。
- **新たな概念=「教職基盤」**
 - ✓ 教職に必要な資質・能力の構造を枠組みとした学修によって形成される省察的実践の「起点」。
 - ✓ 問いを持ち、実践し、省察する際に援用される認知的枠組み、あるいは概念装置。
 - ✓ 学校教育における事象を、教職基盤との関わりからの視点で捉え、多様な他者と関わりながら、省察的実践を展開し、自らを高め続ける

スタンダード見直しの視点

- **新スタンダード**
 - 教職課程が具備すべき学生に提供する学修の事項と機会の標準。
 - 脱スキルリスト
 - **教職課程の構成要素**
 - 学修事項(何を) = 教職基盤によって定義
 - 学びのコミュニティ(誰と) = 学生, 教員のコミュニティ+地域・社会
 - 学修機会(どのように) = 講義, 演習, 教育実習などの学習形態
 - **省察的実践へと繋がる教職課程での学び**
 - 「自己の傾向性を知り, 認識を問い直す」学び
 - 「関わりを通して認識や経験の幅を広げる」学び
 - 「経験からの学び方を学ぶ」学び

教職基盤の定義と構造化



「令和の日本型学校教育」 教師に求められる資質能力の再整理

https://www.mext.go.jp/kaigisirvo/content/20210803-mxt_kyoikuinjizai01-000017240_3.pdf

教職に必要な素養等に主として関するもの

学習指導等に主として関するもの

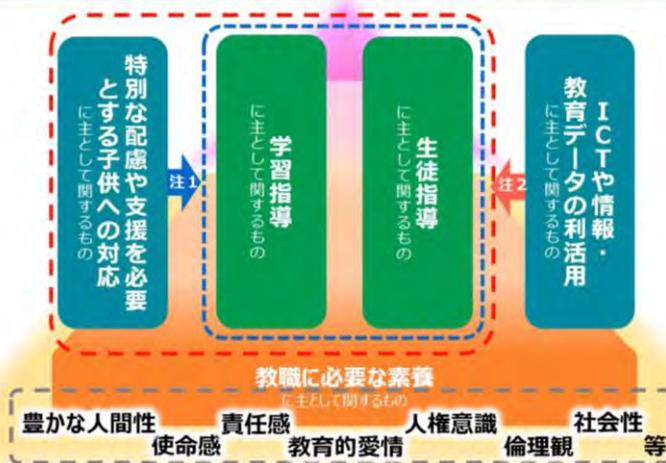
生徒指導等に主として関するもの

特別な配慮や支援を必要とする子供への対応に主として関するもの

ICTや情報・教育データの利活用等に主として関するもの

公立の小学校等の校長及び教員としての資質の向上に関する指標の策定に関する指針
に基づく教師に共通的に求められる資質能力の具体的内容

教師に共通的に求められる資質能力



抽出・整理された教職基盤

- 01-豊かな人間性、教養、人権意識
- 02-教職の意義と関係法規, 学習指導要領、教育改革の動向等
- 03-学校の組織マネジメントと働き方
- 04-連携・協働、コミュニケーション、ファシリテーション
- 05-子供の発達と学習
- 06-ダイバーシティとインクルージョンの教育
- 07-学習者中心の学習観・授業観
- 08-教科等の専門性と教材研究
- 09-授業設計・実践・評価・改善
- 10-カリキュラムの開発・実施・評価
- 11-STEAM教育
- 12-ICTの利活用
- 13-情報教育(含プログラミング教育, 情報モラル・セキュリティ教育)
- 14-教育データの活用
- 15-生徒指導・生活指導
- 16-学級経営, 特別活動
- 17-教育相談
- 18-キャリア教育
- 19-防災教育, 学校安全

教職基盤

19

現行STD50
項目が網羅さ
れていること
を確認

コアカリとの
対応関係も
確認

縦軸=常に働かせる教職基盤



横軸=場面や状況に応じて働かせる
教職基盤

教職基盤を働かせているイメージ

縦軸=常に働かせる教職基盤

横軸Ⅱ場面や状況に応じて働かせる教職基盤

教師としての基本的素養

- 01-豊かな人間性、人権意識
- 02-教職の意義と関係法規、学習指導要領、教育改革の動向等
- 03-学校の組織マネジメントと働き方

多様な関わりを構築し活かす力

- 04-連携・協働、コミュニケーション、ファシリテーション

子供を理解する力

- 05-児童生徒の発達、学習

特別な配慮や支援を必要とする子供に対応する力

- 06-ダイバーシティとインクルージョンの教育

教科等の学習指導を展開する力

- 07-学習者中心の学習観・授業観、08-教科等の専門性と教材研究、09-授業設計・実践・評価・改善、10-カリキュラムの開発・実施・評価 11-STEAM教育



ICTや教育データの利活用する力

- 12-ICTの利活用 13-情報教育(含 プログラミング教育, 情報モラル・セキュリティ教育) 14-教育データの活用



学級経営・生徒指導を展開する力

- 15-生徒指導・生活指導 16-学級経営, 特別活動 17-教育相談 18-キャリア教育 19-防災教育, 学校安全



